

平成 27 年度 第 1 回長野市文化芸術振興審議会 会議録（概要）

日 時 平成 27 年 9 月 7 日（月） 午後 3 時 30 分から午後 5 時 20 分まで

場 所 長野市役所第二庁舎 10 階 会議室 17

出席者 委 員：市村委員、金澤委員、齊藤委員、高田委員、玉城委員、中村（礼）委員、
大橋委員、高橋委員、鶴田委員、中村（柏）委員、山崎委員

長野市：加藤市長

事務局（文化スポーツ振興部文化芸術課）松本部長、竹内課長、
石坂課長補佐、中野係長、久保係長、手塚主事

《資料》

長野市文化芸術振興計画

長野市文化芸術振興計画（概要版）

資料 1 長野市文化芸術振興計画 実施計画 平成 27 年度版

資料 2 長野市芸術館について

資料 3 平成 27 年度 文化芸術振興事業概要

長野市芸術館工事写真

長野市執行機関の附属機関の設置等に関する条例

1 開会

2 委嘱書の交付

3 市長あいさつ

4 委員・事務局自己紹介

5 役員の選任について

互選により会長に齊藤委員、会長の指名により職務代理に大橋委員を選任

6 会長・職務代理あいさつ

7 議事

(1) 平成 26 年度の事業状況について

(2) 平成 27 年度の事業計画について

（事務局）

〈文化芸術振興計画（概要版）及び資料 1 について説明〉

（会長）

委員の役割は、市からの諮問に対して評価・提言を行うことになります。自由なご意見をお願いします。

(委員)

議事の(1)、(2)と(4)の違いは何か。今年度の事業に対する意見については、(4)の議事で行った方が良いのか。

(事務局)

(1)、(2)については、振興計画に基づき各課で全市的に取り組んでいる事業を掲載しており、(4)については、文化芸術課が所管している事業について、さらに詳細に記載してある。ご意見については、この場でいただき、所管する担当課には伝えていく。

(委員)

平成 26 年度の事業に対する評価はどのように行っているか。

(事務局)

現状では、各課の事業評価まで取りまとめていない。事業評価については、評価方法があり、各事業ごとに評価を行い、ホームページでも見ることはできる。

(委員)

26 年度の事業評価を踏まえた上での 27 年度計画になっているのか。若しくはもっと長いスパンで見た方が良い事業もある。

(事務局)

評価を行った上での事業もある。

(委員)

目標とする数値や来場者数があるが、どういった目標でこの数値になっているのか。イベントによっては、多いから良いと言うものではない。来場者は少ないが貴重な取り組みもある。いかに喜んでいただいたかも重要になる。

(事務局)

指標については、大変難しい部分がある。今までの指標が良いのか、単純な数値目標にならないよう、計画を策定する段階でご意見をいただきたい。また、目標を立てて終わりではなく、その後に反映していけるものとしたい。

(会長)

来られた方がいかに満足されたかが重要である。よくある手法はアンケート調査や観察による評価もある。次の計画策定までに行わなくてはならないことは何か。

(事務局)

具体的にはこれからになるが、計画を策定することは決まっている。

(委員)

計画には様々なものがあるが、長野市には、セイジ・オザワ 松本フェスティバルのような核となる事業がない。私は長野市を挙げて「信濃の国」をやるとか、みんなで道路に絵を描くのも面白いと思う。ローカルで信州らしい、みんなが集まれるものが1つあると良い。

(事務局)

創る側と見る側が別々ではだめだと思う。参加型の取り組みは街づくりの上で重要だと考えている。

(委員)

小学校の音楽・演劇鑑賞など子どもたちは大変喜んでいる。長野冬季オリンピックから継続して毎年2月に行っているハートフルコンサートが計画に入っていないので入れてほしい。

(事務局)

計画には入れたい。ハートフルコンサートについては、当課で補助もしており、資料3でご説明する。

(3) 長野市芸術館について

(事務局)

〈資料2及び長野市芸術館工事写真について説明〉

(委員)

音楽キャラバンについては、平成26年度は34回実施した。平成27年度は30回予定していたが、現時点で31回計画している。

(委員)

芸術館は音楽がメインの施設なのか。音楽がメインだと思っていたが、演劇があって嬉しかった。展示サロンとはどういうものなのか。

(事務局)

専門家及び市民の方々と検討を進めた中で、音楽に特化したホールが2つ、演劇が1つとなった。展示サロンは長細いガラス張りの部屋となっており、使用方法は今後、検討する。

(委員)

アトリエで製作したものを展示サロンに展示するなど関連はあるのか。アトリエは、単に製作場としての部屋なのか。

(事務局)

色々な使用方法があると思う。財団ともアイデアを出し合って有効に活用したい。

(委員)

様々な利用方法ができると考えている。

(4) 平成 27 年度の文化芸術振興事業について

(事務局)

〈資料 3 について説明〉

(委員)

継続している事業が多いが、効果があって取り組んでいるのか。もっと新しいものもあっても良いと思う。青年会議所は、小学生向けの「ながの市あるあるドリル」を作成した。野外彫刻の掲載や、子ども向けの取り組みなど、青年会議所と連携した事業もできると思う。

(委員)

街角コンサートは、年間を通じてあると観光客に楽しんでもらえる。観光面からも核となる事業があると良い。

(委員)

セイジ・オザワ 松本フェスティバルのスクリーンコンサートに参加させていただいた。事務局から通知を貰って初めてあることを知った。知る機会が増えると、もっと多くの皆さんに来ていただけるのではないかと感じた。

(委員)

古典芸能は、今後どうすれば良いか悩んでいる。子どもたちへの教育が進められれば有難い。

(委員)

箱根の彫刻の森のように城山に野外彫刻を集めてみてはどうか。善光寺との散策が楽しめるかもしれない。

(委員)

文化芸術は、堅い、高い所にある感じがする。もっと子どもたちが楽しめる柔らかさがほしい。子どもが楽しい企画は大人も楽しいはず。

(委員)

クラシックなどでも何をしても良いコンサートがあっても面白いと思う。

8 閉 会